

教科	芸術	科目	書道 I			単位数	2 単位
学科	普通科 工業科	履修学年	1 学年	コース		必修・選択	必修
教科書	光村図書『書 I』						
副教材等							

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学習目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広くかかわる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の多様性について幅広く理解するとともに書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じて意図に基づいて表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
指導の重点	(1) 基本的な書写能力を高める指導を目指します。 (2) 様々な体験活動を通して、個の芸術的能力（表現および鑑賞の能力・美的感覚・直感力・想像力・思考力・理解力・コミュニケーション力）を最大限に発揮できる指導を目指します。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (20)	▼ガイドダンス(2) 漢字の基本用筆と技法 ▼楷書の学習(10) ・孔子廟堂碑 ・牛欄造像記 ・鄭義下碑 ・顔氏家廟碑 ・雁塔聖教序 ▼新潟県競書大会作品 制作(4) ▼篆刻の学習(4)	・「書道」と「書写」との違いを知る ・書道Ⅰの目標を理解する ・用具用材について知る ・筆の可能性と使い方を知る 全古典共通(通年) ・時代背景や作者、作品の内容を理解する ・古典を細部まで鑑賞する ・古典を臨書する ・学習してきた古典のもつ特徴を生かして、 倣書の力を深める ・姓名の白文印を刻す ・篆刻シートにならって進める	・作品 ・ワークシート ・学習記録シート ・授業中の態度 ・鑑賞 上記を総合的に判断し、 評価する。
	2 学期 (24)	▼篆刻の学習(4) ▼漢字仮名交じり書の学習 (8) ▼行書の学習(6) ・蘭亭序 ・風信帖 ▼隷書の学習(2) ・曹全碑 ▼刻字(6)	・1学期の続きに取り組む ・漢字と仮名との調和を図り、作品の構成を 考え創作し、制作した落款印を押印する ・完成した作品を鑑賞し、発表する 全古典共通(通年) ・時代背景や作者、作品の内容を理解する ・古典を細部まで鑑賞する ・古典を臨書する ・学習した様々な書体を生かして創作し、彫 ることによる立体感・色彩感を理解する	・作品 ・ワークシート ・学習記録シート ・授業中の態度 ・鑑賞 上記を総合的に判断し、 評価する。
	3 学期 (20)	▼刻字(4) ▼仮名の基本用筆と技法 研究(2) ▼仮名の学習(8) ①いろは歌(単体) ②高野切第三種 ▼実用書の学習(6)	・1学期の続きに取り組む ・筆の持ち方と構え方を理解する →縦線、横線、転折、円運動を習得する ・時代背景や作者、作品の内容を理解する ・古典の細部まで鑑賞する ・古典を臨書する ・生活の中の書を理解し、実用的な知識と技 術を習得する	・作品 ・ワークシート ・学習記録シート ・授業中の態度 ・鑑賞 上記を総合的に判断し、評 価する。
計64時間(55分授業)				

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 観 点 の 趣 旨 と 評 価 方 法	(1) 書の表現方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 (2) 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じて意図に基づいて表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えている。	主体的に書の表現および鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、 ・提出作品の内容(技能) ・小テスト、ワークシート(知識) などから総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79~50%をB、50%未満をCと評価します。	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、 ・提出作品の内容(表現) ・ワークシート(思考・判断) などから総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79~50%をB、50%未満をCと評価します。	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、 ・学習意欲、授業への取組 ・出席状況、課題提出状況 ・用具用材の取り扱い方 などから総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79~50%をB、50%未満をCと評価します。